

モンゴル国立大学より訪問団が来訪されました！

6月15日に、モンゴル国立大学(NUM)より8名の訪問団が弊学に来校されました。2018年9月22日に NUM とアジア国際社会福祉研究所(ARIISW)の間で締結された基本合意書(MOU)に基づき、これまでも研究協力や研究交流¹を行ってきたところ、大学レベルでのさらなる協力関係の発展を模索すべく来訪されました。

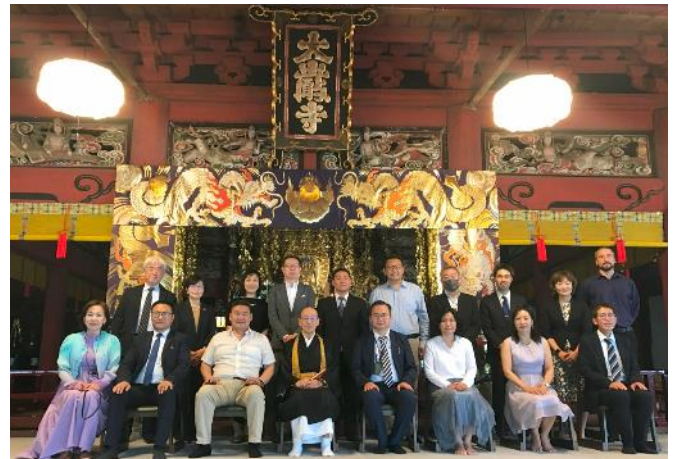
大巖寺本堂にて NUM 訪問団をお迎えし、長谷川匡俊 最高顧問(大乘淑徳学園理事長)より歓迎の意をお伝えするとともに、弊学の山口光治 学長、米村美奈 副学長(兼・総合福祉研究科長)らよりご挨拶させていただきました。午前中は、総合福祉研究科によるコーディネーションのもと、高齢者福祉に関する講義(下山昭夫 副学長)、発達臨床研究センターの視察(池畑美恵子 准教授)を行いました。

その後、NUM 訪問団長である人文科学部 Chultemsuren Tamir 副学長より、「モンゴル国におけるソーシャルワーク教育制度の出現とその展開」と題した講義が行われました。弊学総合福祉研究科の大学院生も聴講し、大きな関心が寄せられました。

午後は ARIISW と NUM による共同セッションでした。ARIISW の戸塚法子 所長からの歓迎の挨拶後、研究員らが ARIISW の概要と取り組み、仏教ソーシャルワーク研究、国際ソーシャルワーク研究等について紹介しました。また、日本ソーシャルワーク教育学校連盟(ソ教連)事務局作成の「Profile of JASWE(ソ教連概要)」が紹介されました。

その後、NUM 訪問団より、9月28日にウランバートル市内にて開催予定のオープン・マインド・モンゴリア 2023(テーマ:「現代の社会課題に対する革新的な解決策を探る」)²をご紹介いただきました。そして、淑徳大学からの訪問団を同会議に招待すること、共同セッション「障害と開発の政策・実践がもたらすソーシャルワークへの示唆」(仮題)を検討・調整すること、などの具体的な提案・協議が行われました。

最後に、NUM 側からは、「信頼関係に裏打ちされた今後の交流の発展可能性を確信し、きわめて充実した訪問になった」との御礼の言葉がありました。短期的には9月の共同セッション、そして将来的には共同的な取り組みがさらに発展していくことを期待することができました。末筆ながら、訪問団の受け入れに際し、協力・連携を賜りました、ソ教連事務局、そしてすべての方々に厚く御礼申し上げます。



◆アジア国際社会福祉研究所のニュースは当研究所のホームページよりご覧いただけます。

<https://www.shukutoku.ac.jp/university/facilities/asiancenter/>

◆淑徳大学内ではSナビにて月1回程度配布されます。

¹たとえば、仏教ソーシャルワーク研究シリーズ第1号「モンゴルにおける仏教ソーシャルワークの誕生と成長～仏教ソーシャルワークの探求～」の発刊(2018年)、「コロナ禍の中の仏教ソーシャルワーク」に関する国際会議(2021年9月)が含まれます。

² https://dep.num.edu.mn/sna/conference/?fbclid=IwAR19BBikZ_pl_0Mje-gvXlyLcQL30xHCS8ij8HzPnY83Ra1A4_TGhGHtT2s#